



打ち「どんど焼き」などに留まる。一番の要因は、担い手となる若者や子どもの参加が減ってきていることだ。

下土師とへとへ保存会ではへとへを行っている竹山浩介さんは、次のように話す。

「時期も時期なので、水をかけられると本当に寒い。今年は濡れた旗が凍ったほどです。でも、年配の方を中心に『懐かしい』『お疲れさま』と喜んでもらえています。先輩たちが受け継いできた伝統をこれからも続けていきたいです」

全国でも珍しい来訪神に水をかける風習

とへとへ



下土師とへとへ保存会



story 下土師のとへとへを復活させた2人



八児 正信さん 大塚 正秀さん
(土師) (土師)



下 土師地区では、地区の青年団が廃止になって以降、とへとへは行われていませんでしたが、平成11年、15年ぶりに復活させたのが、八児正信さんと大塚正秀さんです。

「先輩から『復活させちゃらんか』と声をかけられたのがきっかけでした」と振り返る八児さん。とへとへという行事を周知するため、回覧板作成や新聞社への声かけなど準備に奔走。「仕事をほったらかして準備していました」と大塚さんは笑います。

反響は思いのほか大きく、「昔から住んでいる方は復活をととても喜んでくれ、泣いて喜ぶ方もいらっしやいました」と頬を緩める八児さん。

「伝統行事は一度途絶えると元に戻すのはとても難しい。今とへとへを行っている人も、大変だとは思いますが、がんばって続けていってほしい」と、お2人は若い世代へエールを送りました。